

【地域版】公共施設タウンミーティング 会議録

日時	平成 30 年 9 月 23 日 10 時 00 分～12 時 30 分
開催場所	高平ふるさと交流センター 研修室兼映写室
対象地域	三輪北部、小野、高平
参加者	7 人
市出席者	森市長、椋田技監、赤松理事、東野経営管理部長、江田危機管理担当次長、山添市民協働室長、川田市民文化室長、古川地域整備室長、外岡学校教育部長
事務局出席者	西垣戸財務室長 公共施設マネジメント推進課：甲斐課長、木戸課長補佐、松木主任、迫田主任 協働推進課：上治地域担当課長（高平担当）、古家地域担当課長（三輪北部・小野担当）
議題	(1) 三田市の公共施設の現状・基本方針(案)の説明 ・「三田市の公共施設をとりまく現状」の説明 [木戸課長補佐] ・「三田市公共施設マネジメント推進に向けた基本方針(案)」の説明 [椋田技監] (2) 意見交換 [意見交換シートを活用]

会議の概要

司会	<p>1. 開会</p> <p>2. 市長挨拶</p> <p>3. 現状・基本方針(案)の説明</p> <p>4. 意見交換</p> <p>先程市から、公共施設は安心安全に利用して頂くために、適正な管理が必要であると説明させて頂きました。ただ、維持管理経費について年間約 26 億円かかるということで、公共施設を有効活用していくために、みなさんの生活感覚の中で、公共施設は 1 つにまとめていいのではないかとこのようなご意見やアイデアがございましたら、お伺いしたいと思います。</p>
参加者	<p>我々から考えると、突然こういう状態になったのではなく、施設を建築すれば必ず傷んでくるのは解っていたはずなのに、基金は別に使ってしまったのでしょうか。また、市職員の人件費が高いと言われているのにこちらの財源を削るのですか、という話をあちこちから聞きます。予算の重要性の考え方はどうなっているのでしょうか。</p>
市	<p>当初三田市は、20 万都市を目指してインフラや施設の整備を行ってきました。人口は増えてきましたが、目標には届かず、結果として多くの施設を持つことになりました。</p> <p>財政状況ですが、国からの交付税が想定より大きな幅で急減しました。このため、現在、行財政構造改革に取り組んでいます。これらの不確定な要素もあり、まずは今後のことを考えて、公共施設マネジメントをしっかりとやっていかないと将来禍根を残していくだろうと、軌道修正していこうと考えています。</p> <p>職員の人件費ですが、例年 4 月に東洋経済がランキングを載せていまして、今年 4</p>

月に三田市は全国8位と出ていました。これには2つの要因がありまして、1つは、三田市の全職員数1,158名ですが、全職員数に占める病院職員数が非常に多く、4割近くになります。医師の給与も含めて平均値を出すので、単価が上がってしまうということです。もう1つは、病院以外の職員ですが、職員数はこれまでから取り組んでいる行革にて採用をかなり圧縮しています。ただ、40代以上の職員が全体の7割を占めており、他の都市に比べて平均年齢が高い状況です。この2つの要素があり、平均単価が上がっています。今後はこれらも踏まえながら、職員の給与の構造も見直していきたいと考えています。

ラスパイレス指数ですが、三田市の直近の数が98.9ですが、これは県下平均より低めに抑えてきています。行革の一環として、29年と30年に職員の給与カットを行っており、ラスパイレス指数も全体的に下がってきている状況です。なお、今年4月に出た東洋経済の数字は、平成28年4月時点のデータですが、この後に給与カットを行っていますので、この時点では反映していません。

参加者 病院の人件費も計上されていると言われましたが、これは他の自治体も同じではないでしょうか。

市 給与実態調査には、病院が含まれている自治体もあります。市として市民病院を持っている自治体がそうですが、全ての自治体に市民病院があるわけではありません。また全体的な構成として、近隣市は、病院職員が全体の1割以下ですが、三田市の場合は病院職員を沢山かかえており、特にその中の給与額が高い医師を含めると、どうしても全体的な平均値が上がる結果になります。まずは、行政職員の給与カットをさせて頂いて、その辺りを押し下げたいと考えています。

参加者 わかりました。私は職員の賃金カットを希望しているのではないです。人件費として、むやみに削減しないようにはしてあげないといけないと思います。

市 おっしゃるとおり、職員のモチベーションが下がってしまうというのは、組織運営上大きな課題だと思います。ただ、モチベーションを維持しながら、今後どういう給与体系にしていくのか、内部で考えていきたいと思っています。

参加者 市の財政を潤すことも大事だと思います。そのためには市民を増やさないといけないと思います。三田市役所に勤務されるのであれば、市内に住んで、三田市を愛して何とかしていこうと思える気持ちが沸き上がってくる、そういうふうになったらいいというのが私の希望です。

市 職員の居住地ですが、約半数は市外で、残り半数は市内です。市内に限定してしまうと、優秀な人材を得られないこともあり得ます。組織運営上、優秀な人材を獲得して、より良い施策を実施させて頂きたいと考えております。このため住所地によっての限定はしていない状況です。

司会 地域内の公共施設についての意見交換に移らせて頂きます。高平ふるさと交流センター多目的ホールについて2件ご意見を頂戴しています。

抜粋ですが、1つは、「この多目的ホールは地域の活性化のインフラとなっている。高平の人がニュータウンへ行って同様の活動をするのは、距離的に考えて非常に難

しいのではないのでしょうか。この地域にこのようなインフラがあるのは非常に大切です。利用者を増やすためにもっと PR 活動に力を注いで欲しいです。今現在 PR 活動は皆無に近いと思います。」ということです。

もう 1 つは、「高平ふるさと交流センター多目的ホールと高平小学校の体育館の利用頻度はどうか。両者の統合が考えられるのではないか。」というご意見です。

市

高平ふるさと交流センター多目的ホールですが、平成 6 年度に整備されて、築 23 年になります。当初はこの地区において、学校以外に研修や健康増進のための施設がないことから、地域の農業者のための拠点施設として農村活性化のために整備されました。PR 活動がされていないとのご意見を頂きましたが、この施設は、地域活性化のための施設だということです。

利用状況ですが、稼働率にして約 20%です。子どもから大人まで地域の方が、卓球や剣道、バレーなど、定期的に利用されています。また市外から、体育会系クラブの合宿などで、野外活動センターに宿泊し、こちらを体育館として利用されています。一方で小学校の体育館もありますので、これからの市の財政状況を踏まえる中で、ご提案も 1 つの方法ではないかと考えています。

市

小学校の体育館というのは、学校が休みの時は、例えばスポーツ 21 など地域で使ったりしていますが、平日学校がある時には使えませんので、やはり今のところは役割分担があり、2 つとも必要な施設だと考えています。一定の条件のもと存続というのは、体育館を建て直すぐらいの根本的な修繕が必要になれば、廃止も考えないといけないということです。決して放ったらかしにして寿命を迎えたら潰すとは、市として考えておりません。

参加者

高平ふるさと交流センターでは、雨が降った時に、アリーナの屋根からの水が多目的ホール横の道路に溜まります。排水ができていないことと、多目的ホールの屋根の樋が詰まっているのではないかと思います。雨が止んでも水がポトポト落ちてきます。また、雨樋の水で地面を掘っています。早く修理しないと厄介なことになる気がします。

市

また後ほど、状況を確認します。

参加者

バスケットや卓球、バレーなど、小規模なグループの利用が多い施設です。田舎だからこそ文化の基地になるように、配慮をお願いします。地域の方はリピーターが多いのが現状です。

司会

次に野外活動センターについてのご意見を 2 件紹介します。

「野外活動センターは環境が素晴らしく、民間委託か高平郷づくり協議会で引き受けることを考えたい。自然エネルギー活用の教育施設とならないか、私共の NPO も協力をしたい。」というご意見です。

もう 1 つは、「三田市における高平地域は本当に自然に恵まれたところで、重要な地域だと考える。三田の特質を打ち出した施設に方向付けてはどうか。そうすることで人と人が繋がり、日本、ひいては世界から注目される地域、市になるのではないか。この野外活動センターを、里山整備で出た間伐材による木質バイオガス発電や、小水力発電の電力で賄いながら、市民のファンドで会社を創って運営してはどうか。

市民が本当にこんな野外活動センターがあつたらという施設にしていきたい。ここで出た木質チップによって、病院等にもバイオガスの発電施設を作り配給するというのを考えても良いのではないか。野外活動センターを活用しながら自然エネルギーの活用も進めていく、そういったきっかけづくりになれば。」というご意見を頂戴しています。

市

民間委託か高平郷づくり協議会で引き受けてはどうかというご意見ですが、現在神姫バスに指定管理をお願いし、市からの指定事業と合わせて、民間のノウハウを活用して色々な自主事業を展開して頂いています。

また、三田の特質を打ち出した施設をということですが、三田の魅力である自然を売りにした野外活動センターは、非常によく利用されています。約 7 割の方が市外から来られています。次に自然エネルギーを活用した教育施設にというご提案ですが、地域や青少年の健全育成という点で、すでに教育的な要素がある施設です。現に子どもの利用も非常に多いです。ただ、自然エネルギーについては打ち出していないのが現状ですが、水力発電やバイオガス発電など参考になればと思っています。

最後にファンドで会社を創るということですが、現在は、利用者が多く、1人当たりの市の負担額も 500 円以下です。ただ、これから市の負担額が増える施設だと考えていますので、1つの方法として検討に加えたいと思います。

司会

これについて、ご意見やご質問等ございませんか。

参加者

私達は、市民の手による市民の施設をつくりたいと思っています。先日、京都の外国人向けのツアー会社に勤務している知人に、この高平をどう思うか聞いてみたら、素晴らしいと言われました。会社でツアーを検討するように提案すると言っていました。この高平は、すごく心の涵養が出来る場所だと思っています。日本人だけではなく外国人に来てもらい、ゆったり過ごしてもらい、その宿泊施設として野外活動センターを活用できると思います。

今、里山の整備により出てくるもので木質バイオガスの会社を興そうという若いプロジェクトが、少しずつ名乗り出てきています。木質バイオガス発電を行うと、熱量が出るそうです。その熱量を利用して野外活動センターでお風呂を作ったら良いと思います。同時にチップ機を置いてたくさん生産し、市内の施設にバイオガス発電機を設置して、そのチップを供給してバイオガス発電を行う。それを地産地消で行う。高平小学校がもし統合されても、小学校を活用して何かを興すという時の電力にも出来ます。小水力発電についても羽束川の豊かな水を活用してやりたいです。再生エネルギーを推進する都市として、名乗り出たいです。その手始めに野外活動センターで、協力してくれる会社と一緒にやっていくという夢をずっと描いています。

市

野外活動センターは、今まで通り指定管理者に管理してもらい前提で、昨年 12 月に基本方針案を作りましたが、その後、民間や地域の方から色々なアイデアを聞いていますので、そのアイデアや時代に応じた柔軟な活用ができるような記載の仕方を考えて、庁内でも検討をしたいと思っています。

自然エネルギーについては、市として里山条例の検討を進めています。当然里山の管理については、木の伐採が必要ですので、チップ化やペレットを作ることも含めて庁内で検討しているところです。

司会	他に三輪北部、小野、高平地区の公共施設についてのご意見ございませんか。
参加者	高平ふるさと交流センター多目的ホールについてですが、意見交換シートに高平小学校と統合されるということを前提として書きました。もし、ここが廃止されることになっても高平小学校でもできるのでしょうか。
参加者	高平小学校の体育館は詳しく知りませんが、この多目的ホールの最大の売りはバスケットゴールだと思います。電動のゴールが降りてきて、子どもから大人まで使えます。これは高平小学校にはなかったのではないのでしょうか。このバスケットボールのゴールの利用者が多いです。あと、広さはどうでしょうか。
参加者	ここの設備を移設することはできるのでしょうか。
参加者	広さがあれば、できるのではないのでしょうか。
市	高平小学校の体育館については、面積が 919 m ² になっております。バスケットゴールについては、小学校の施設になりますので、基本的には小学生が対象です。
市	この多目的ホールの広さですが、690 m ² です。こちらが数字的に狭いです。バレーボールが 2 面、バトミントンが 3 面、ミニバスケットボールが 2 面可能です。
司会	それ以外に地域内の公共施設について、ご意見ございませんでしょうか。
参加者	私は同じ高平でも小野に近いのですが、災害時の避難所はどちらに行けば良いのでしょうか。高平小学校まで行くことは困難で、有馬富士共生センターが行きやすいです。本当は、この高平ふるさと交流センターが避難所になれば良いのですが、悪いことに、土砂災害指定区域になっています。お金がかかることにはなりますが、土砂災害の対策をして頂けないのでしょうか。そうすれば、高平北部の避難所として使えるのではないのでしょうか。
市	まず、どこへ避難したらいいかということですが、特に指定はしていません。それぞれが、最も安全なルートで避難しやすい場所へ避難していただければ良いと思います。 高平ふるさと交流センターは、平成 20 年に県が土砂災害警戒区域を定めた時にイエロー区域になりました。これを受けて平成 21 年に避難所指定を外したという状況です。ただ、これまでは土砂が到達する範囲で土砂災害特別警戒区域が定められていましたが、平成 28 年に県において、さらに一般的な木造住宅が被害を受ける区域を明らかにしていこうという調査が行われています。この高平ふるさと交流センターについては、砂防事業が着手されることが分かっていたため、まだ調査が行われていません。この砂防事業が終われば、建物内で人的被害が発生する確率が非常に低い施設になりますので、地域から避難所指定をとという話を頂いています。ただ、土砂が到達する恐れのある区域であることには変わりありませんので、立ち入り不可の場所などのルールを定める中で、再度、避難所指定に向けて検討を進めています。近いうちに、こちらも避難所として使っていただけるようになると考えています。

参加者	サポート高平の活動で、自分で病院に行けない、買い物も行けない地域の年配者の交通補助を始めています。ボランティアを募集していますが、3年前に14人登録してから増えていません。個人の車や保険を使っているため事故等の際に不安があることが理由の1つとして挙がっています。そこで、電気自動車を三菱自動車に寄付してくれないか頼みに行こうかと思っていますが、その自然エネルギーも野外活動センターで生み出せたらと考えています。
参加者	避難所のことですが、高平ふるさと交流センターは羽東川から1段あがっています。山から向こうが砂防ダムの建設で解決されるのであれば、高平小学校の方が、羽東川の氾濫の危険性があるのではないのでしょうか。
市	高平小学校が川に近いということですが、ハザードマップに書いてある通り、現状としまして高平小学校については浸水想定区域内にはありません。ただ今後、羽東川を含む各県の支流の河川について、想定雨量の変更を検討していく状況になっています。その結果によっては変わってくるかもしれませんが、今我々が把握している中では、浸水想定区域にはないという状況です。
司会	他になければ、三輪北部、小野、高平区域外の公共施設についてのご意見があれば頂戴したいと思います。
参加者	青野ダム記念館ですが、資料を見ると閉館の方向なので、もう少し具体的に知りたいです。地域住民の方々が、殆どの利用者ではないのでしょうか。早急に閉められるのか、お聞きしたいです。
市	青野ダム記念館の現在の利用ですが、貸館業務は一切やっておりません。ですから、会議室等については、地域の方や申込みをされた方に無料利用していただいています。近年はどちらかというと青野地区以外の方や市外の方が利用されていることが多く見受けられます。一時利用的には学校関係の方が遠足で利用されることはありますが、普段の会議室の利用は、現在はあまり多くありません。 施設自体は、今年度シルバー人材センターに改めて、3年間の指定管理契約をしました。今後は、公共施設マネジメントの中で、方向性を出していきたいと考えていますので、今ははっきりとお答えすることはできません。
参加者	3年間は大丈夫だということでしょうか。
市	指定管理としまして3年間協定は結んでおりますが、原則1年更新の契約です。
司会	最後に公共施設全般について、現在のあり方、今後どうなるかなど、ご意見ございませんか。
参加者	先週の日経新聞に掲載されていましたが、都道府県別の公共施設の老朽化率で、兵庫県がワースト7位でした。老朽化率からいうと、三田市はどれくらいでしょうか。 また、公務員の給与ですが、医師を含めて8位ならば、ごく平均的に神戸、西宮、宝塚と比べた時に、どれくらいの差があるのか教えて頂けたらと思います。

市	<p>1点目の市が持っている施設の老朽化率についてですが、三田市は、昭和の終わり頃に造ったので、高度経済成長期に造った市と比べて、比較的老朽化率というのは進んでいません。ただ、他市は高度経済成長期に多くの施設を造り、それ以降も景気が良かったり人口が増えた時にどんどん造っていきましたが、三田市はニュータウン開発に伴って一斉に施設を造ったので、老朽化も一斉に来ます。つまりは、大規模な改修や建替えの費用が一時期に必要なになるので、それを避けるために、こまめに修繕を行い、一斉にお金がかかる波を平たくしていこうという取り組みをしています。</p>
市	<p>人件費ですが、三田市の職員数と他市の職員数についてお答えします。人口1,000人当たりの普通会計ベースの職員数では、これまでかなり圧縮をしています。市民1人当たりの人件費負担額を見ると、県下でも平均以下です。職員数をかなり絞ってきてまして、退職した数よりも職員の採用を抑えてきた経緯があるためです。</p>
司会	<p>他にございませんでしょうか。</p> <p>それでは、意見交換を終了させて頂きたいと思います。最後のまとめとして、市長から一言お願いします。</p>
市長	<p>まず、最初に財政の問題を言われました。1つは国からの交付金がこの2年間で大幅に減ってきたということで、緊急的な財政の問題解決が必要になっています。また先程から出ていますが、今後人口が減ってくる、高齢化が進んでくるということに伴って、構造的に財政を見直していく努力、構造改革をやる必要があると思います。これにつきましては、またいろんな機会でお話させていただきます。</p> <p>それから、職員の人件費の問題ですが、ニュータウン開発に伴って、新しい住宅やインフラを整備するための技術系の職員や、また新たに入ってくる方への窓口対応のために職員を多く採用しました。三田の最大の問題は、この時期に20代で採用した現在45歳から55歳職員の方々が、他市に比べて突出していることです。45歳から55歳と言いますと、ある程度生活規模が大きいので給与が上がってきます。このため単純に平均をとられると、平均値が高くなるのです。しかし一人一人の人件費を見ると、それほど高くないので、やや抑え気味かと思っています。この問題は今後、職員のモチベーションが下がらないよう、また人件費が財政を圧迫しないように、いかに給与の構造を思い切って変えていくかが非常に大きな問題です。</p> <p>市外からの市の職員は年々増えてきています。優秀な人達がいろんな市を受験して、三田を選んで頂く状況です。三田市内に住んでいる人を優遇するのではなく、三田に通って仕事をしながら三田を好きになって、移り住んでもらいたいのです。私は自分の人生で、結婚と共に住居を三田に選んだのは、間違いなかったと思っています。ニュータウンの住宅地の利便性が高く、それだけではなく自然や農業がすぐ近くで感じられます。これは、大事にしないとイケません。</p> <p>自然に恵まれている三田の評価と課題を、外部の方に教えて頂きました。そのままの自然だけではなく、外から人を呼び込もうと思ったら、洒落たプラスアルファがありますよと言われました。単なる自然だけでは、若い人は来ません。私はやはり、三田に住んでいる方々に愛してもらおうと共に、外からも来て頂きたいと思います。そのためには、三田の公共施設をうまく活用できるように思っています。民間にお任せするなり、私はできれば地域イニシアチブを使って、地域の市民の方がやっていただけたらと思います。広い意味での里山というのを、三田としては是非大事にしたい、これは市長就任時からの想いです。今里山の条例も検討しています、しっかりとした理</p>

念の元に具体的なことをやらせて頂きたいです。また、里山を幅広く活用したバイオガスというのは、可能性として十分あるかと思います。三田市としても検討していきたいと思っています。

青野ダム記念館のお話が出ましたが、この夏の災害で青野ダム記念館に避難される方が結構多かったことです。だから、どのような施設にするかは別にしても、それが避難所として活用されているということは十分に認識した上で考えていかなければならないと、改めてこの夏の教訓として受け止めていきたいと思っています。

やはり三田が大きく変わったのは、30年前のニュータウン開発からです。しかも15年20年の間に大きく変わりました。これが他市と違って難しい問題です。何かというと、三田の場合は、一気に老朽化が来て、一気に高齢化します。今年の5月時点で高齢化率、65歳以上が23.5%です。毎年1ポイント以上上がっていきます。年金生活になってくると当然税収が減るといふのと、高齢者に対しての施策が必要です。それが県下のどの自治体も経験していない急激なスピードで、これから10年間進むだろうと、また老朽化も一気に進むだろうということで、これを何とか乗り越えていく必要があります。市長として市の職員を引っ張っていく中で、恐らく今後10年間大変だと思います。市民の方と一緒に、何とかならかな形で乗り越えていきたいと思っていますので、是非ご理解を頂きたいと思っています。今日はどうもありがとうございました。